



伊豆中央ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF IZU-CHUO

週報 第2695回例会

2023.10.10(火) 於:サンバレー富士見

2023-24

RI 会長 ゴードンR.マッキナリー ガバナー 中村皇積
会長 土田 哲 幹事 望月隆一
会報委員会 川合礼恵 武田友良 木内昭夫 望月良則

例会場 ホテルサンバレー富士見 静岡県伊豆の国市古奈185-1
TEL (055)947-3100 FAX (055)947-0564
事務局TEL (055)976-6351 FAX (055)976-6352
URL www.izuchuo-rc.org
写真: 柿田川(伊豆半島ジオパーク)

会長挨拶

会長 土田 哲君



皆さん、こんばんは。

先週月曜日に伊豆大仁カントリークラブで静岡第1グループのゴルフ交流会が行われました。ご参加いただいた土屋雄三親睦友好委員長、柿沼君、誠にありがとうございました。柿沼君にはスタート時間などの度重なる予定変更にも快くご対応いただきまして重ねてお礼申し上げます。当日は浜松より中村ガバナーにもご参加いただき、和気あいあいと交流をいたしました。なかにはハーフ30とプロ並みのスコアを叩き出す猛者もいました。プレー後の親睦会ではすべての参加者に米山ガバナー補佐から景品が手渡され更に懇親が深まり、とても良い一日を過ごさせていただきました。今後も静岡第1グループの合同奉仕事業が予定されております。詳細が決定次第皆様にご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。また、親睦友好委員会にお骨折りをいただいております、来週の週末に行われる京都乙訓ロータリークラブとの交流会ですが、最終的には会員、ご家族、ゲストを含めて21名のご参加が

予定されています。こちらは大いに交流を楽しみたいと思います。皆様よろしくお願いいたします。本日の卓話は堀江君、川合君の会員卓話となっております。お二人ともよろしくお願いいたします。

出席報告

ビジター

| | 出席総数 | 出席率 | 会員総数 |
|----|-------|--------|------|
| 今回 | 22/28 | 78.57% | 28名 |

成田みちよ君(沼津西RC)
露木博幸君(沼津西RC)

<欠席者>

・浅田君 ・柿沼君 ・紀平君 ・小林(則)君 ・竹村君
・原田君

会員慶事

会員誕生日:木内昭夫君
入会記念日:木内昭夫君 山田茂樹君
奥様誕生日:中山博司君 竹村淳一郎君
望月隆一君
結婚記念日:山田茂樹君 木内昭夫君
中山博司君 堀江伴英君
古藤田博澄君



スマイル報告

- 木内昭夫君 ご無沙汰しております。
- 土田 哲君 堀江君、川合君、卓話楽しみにしております。
- 小野 憲君 バレーボール日本代表『龍神ジャパン』パリ五輪出場おめでとう。ラグビー日本代表『ブレイブ ブラッサムス』感動有難う。(スマイル合計 ¥36,000)

堀江伴英君

堀江歯科医院は平成元年7月に開業いたしましたので今年で開設から34年になります。

当初はこの地で東京で行われているような『費用がかかっても高度な最新最良の治療を』というコンセプトで診療を行ってききましたが現在では『地域のホームドクターとして地元の人たちの健康のため貢献する』というもの変わってきました。

今振り返ってみますと若い頃の自分には「心」の部分が希薄であった。自分のやりたいこと、「我」を通して少しばかり「上から目線」でことを進めようとする傾向が強かったのだと思います。ロータリーに関しても木内昭夫様から10数年前にお誘いを受けましたがお断りを続けておりました。

7年ほど前、そんな私は現在会長を務めております伊豆中央倫理法人会に入会いたしました。あれだけ頑なに団体に所属することを拒んでいたにも関わらず、その時はなぜか素直にここで勉強してみようと思ったのです。倫理法人会は『心の経営』を目指す経営者のための社会教育団体であります。そのエッセンスは『明朗』『愛和』『喜働』に集約され、さらにこれを推し進めていきますと『純情(すなお)』という言葉に集約されます。ふんわりとやわらかで、何のこだわりも不足もなく、澄み切った張り切った心、これを持ち続けることことであります。経営の神様と言われる稲盛和夫さんが「経営を良くしたければ心を高めなさい」と仰ったと聞いたことがあります。まさにこれなのではないでしょうか。

当院の毎朝の朝礼では挨拶実習も取り入れています。「おはようございます」「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」の他に「はい！」の練習もしています。「はい」という言葉は相手を認め敬意を払う事。その時のコツは①すぐに②はっきりと③朗かに行う事、そこに「喜んで」という思いが添えられればより理想的だといえるでしょう。

今、堀江歯科医院では訪問診療(往診)を積極的に行っています。歯科の訪問診療はまさに野戦病院です。理想的な治療はできません。それでも今できることをできるだけベストを尽くす診療です。多くの機材を用意して時間をかけての訪問診療は決して収支的には恵まれたものではありませんが訪問先の寝たきりの方が少しでもものを噛めるようになればとの思いで続けています。

そして今、私はあれほど頑なに断っていた伊豆中央ロータリークラブの末席に籍を置いています。それは私が少しばかり自分の心を変えることが出来たからだと感じています。誰でも、何歳でも自分をより良く変えることは出来ます。

心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる
 人格が変われば運命が変わる 運命が変われば人生が変わる

そんなことを信じている今日この頃です。

川合礼恵君

自己紹介は第一回目で済んでおりますので、今日は私の好きな浮世絵、浮世絵に描かれた江戸の人々についてお話をしたいと思います。まず、誰もが見たことのある浮世絵のオーソックス、東海道五十三次「日本橋 朝の景」です。これは参勤交代で江戸に来ていた大名が国へ帰っていくところを描いた絵です。



大名が通ると時代劇では「下に下に～」と跪いていますが、江戸府内では跪くことはなかったようです。

右手に魚市場があり、魚屋さんたちは行列が来る前にと、いそいそと売りに出かけるところです。魚屋さんはこのようにまな板を持っており、売りに行くとその場で捌いてくれ、ごみまで持ち帰ってくれたそうで、江戸の町はごみひとつないきれいな街だったと言われています。もうひとりの魚屋さんが頭に乘せているのは鯛と初鯉です。江戸の人は初物を好み、特に初鯉については、どんなことをしても食べたいという風潮があったようで、「女房を質に入れても 初鯉」など、いろいろな歌が詠まれました。

次の浮世絵は名所江戸百景より「するかてふ(駿河町)」です。ここは現在の三越本店と三井本店の間の道を描いた絵で、駿河町の由来は、豊臣秀吉が天下を取り、徳川家康が江戸に来た際に一緒に来た駿河の人々が住むために与えられた土地だからと言われています。当時も一等地です。そして、脇に並んでいる店のはかの有名な「三井越後屋」です。当時掛売が一般的だった時代、「現金掛け値なし」と現金払いによる値下げ効果を狙った戦略でとても繁盛しました。現金払いだけでなく、「店先売り」「切り売り」「仕立て売り」という今では当たり前でも当時は画期的な営業戦略で大きくなりました。

そして次の浮世絵は同じく江戸名所百景より「びくにはし雪中」です。

目の前に大きく「山くじら」と書かれています。これは、獣肉(主にいのしし)のことで、当時なんとなく獣の肉を食べるのは憚れるという時代でしたので、表立って食べることはできませんでした。この絵でも雪がたくさん積もっていますが、寒さが厳しいとき、元気がないときなど、「薬食い」という名目で肉を食べたとされています。

また、右側に○やき十三里とありますが、十三里とは「サツマイモ」のことで、サツマイモの丸焼き、つまり焼き芋屋さんです。当時、焼いておいしいものは栗と言われていましたが、九里(栗)四里(より)うまいということで九里+四里=十三里、十三里と表示されました。これ以前には栗には適わないけど栗に近いくらいおいしいと「八里半」とも言われていました。このような江戸っ子の洒落がさらに人気に火をつけ、焼き芋は大ブームになったと言われています。

まだまだ浮世絵にはたくさんのおもしろいことが潜んでいます。また、ぜひご紹介できたらと思います。今日はありがとうございました。

